

はい!

やくも町議会

です

第 72 号

令和 4 年 2 月

編集 / 議会広報広聴常任委員会



「コロナをやっつけろー！」
ただいま鬼の修行中！

映像配信中！YouTube
「八雲町議会」で 🔍 検索



主な内容

	ページ
○一般会計補正予算	②
○6名の議員が町政を問う（一般質問）	④
○議決・賛否一覧他（定例会・臨時会）	⑩
○特集！八雲町の脱炭素の取り組み	⑫
○常任委員会の活動（所管課報告）	⑭
○八雲中学校生徒会の皆さん（耳をすまして）	⑯



ホームページアドレス <https://www.town.yakumo.lg.jp>

第4回定例会

令和3年度一般会計補正予算

1億9,138万7千円追加

(補正後の総額 178億9,005万3千円)

第4回定例会は12月9日から12月14日まで6日間の会期で開かれました。補正予算、条例の改正、財産の無償貸付など議案9件を審議し、いずれも原案どおり可決しました。

補正の主な内容

・子育て世帯臨時特別給付金

1億200万円



一人当たり5万円の支給分

※12月中に一人当たり10万円を一括支給するため、更に1億200万円を専決処分により補正しています。
(令和4年第1回臨時会にて承認)

・平田内川小水力発電会社(仮称)出資金

1,100万円

15ページにも
関連記事あります



・アイヌ農林漁業対策事業補助金 5,360万6千円

全自動耳吊機17台分を整備

・海洋深層水機械器具等修繕料 273万2千円

水産種苗センターへの海洋深層水送水ポンプの取替修繕



・校用備品購入費 336万2千円

各小学校保健室に換気付きエアコンを設置

・校用備品購入費 182万6千円

各中学校保健室に換気付きエアコンを設置

・冬季福祉手当給付事業 380万円

燃料費高騰による町民税非課税世帯への福祉手当を増額
(5,000円から10,000円に増額)



・国民健康保険事業特別会計繰出金 1,048万2千円

・介護保険事業特別会計繰出金 43万7千円

新型コロナウイルス感染症関連（国からの補助金等）

八雲総合病院

新型コロナウイルス感染症拡大防止・
医療提供体制確保支援補助金

460万円

感染症医療提供体制整備事業
107万7千円

発熱者等診療・検査機関等
設備整備事業補助金
64万9千円

新型コロナウイルスワクチン
接種体制支援事業支援金
720万5千円



八雲総合病院



熊石国保病院

熊石国保病院

新型コロナウイルス感染症拡大防止・
医療提供体制確保支援補助金

417万7千円

感染症病床確保促進事業費補助金
7,974万6千円

感染疑い患者受入医療機関
設備整備等事業費補助金
33万8千円

新型コロナウイルスワクチン
接種体制支援事業支援金
432万円

感染症病床2床確保！

財産の無償貸し付け

- ・無償貸付けする財産 旧泊川小学校・教職員住宅2戸
- ・無償貸付けする相手方 リングロー株式会社
社長は八雲町出身！
- ・無償貸付する理由 遊休施設となっている旧泊川小学校の有効活用を図るとともに、少子高齢化対策や雇用創出を含め、持続可能な地域づくりの向上が期待できるため。
- ・無償貸付する期間 令和4年1月1日から令和8年12月31日



旧泊川小学校

リングロー株式会社が提供する「おかえり集学校プロジェクト」とは

一旦廃校になった地域の学校を、ITと地域の力で再生。様々な「おかえり=RebirthやRecycle」体験を提供し、地域のシンボルであった学校を拠点に「地域をもう一度元気にする！」プロジェクト。

ITに関する寺子屋であり駆け込み寺でありたいと考えている。

賛成討論

平田内川小水力発電会社出資金は、専門的な知識やノウハウがない中で出資し、事業を展開していくという町長の言葉を信じ、第2第3の電力事業の際には同じことにならないとの認識から、この補正予算に賛成する。

三澤公雄議員

反対討論

平田内川小水力発電会社出資金について、再生可能エネルギーの推進には賛成するが、民間企業の事業へ出資し、第3セクター的な会社の設立ではなく、自前の発電会社の設立を考えていくべき。よってこの補正予算に反対する。

横田喜世志議員

一般質問

町政を問う!

※質問した議員本人が原稿を書いています。

一般質問とは？

町の仕事の全てを問いただし、自由な意見を述べ、それについて町の公式見解を引き出すことのできる機会。華やかであるが「力量」が問われる。

Q

持続可能な開発目標(SDGs)を熊石再生に

さいとう まこと
齋藤 實 議員

A

基幹産業の振興が重要

熊石地域は若者の定住化促進のため、基幹産業の振興が重要である。サーモン養殖試験事業を展開し、事業化を推進する。産業振興に対する企業誘致活動を拡充し、活動の起爆剤に結び付ける。

問

人の命と健康、社会の融和、自然との共生などを大切にするSDGsは町の課題でもあり、町民一人ひとりの課題でもある。熊石地域は人口減少に伴い、地域の活力が低下している。担い手である若い世代が少ないことが原因である。未来の地域づくりを町民と協働で取り組む考えは。

町長

SDGsとは国連サミットで採択された、誰一人取り残さない持続可能な多様性と包摂性ある社会の実現である。

八雲町では、人口減少や少子高

Q 熊石国保病院の建替促進を

地域住民と対話し意見を尊重する

A

令和2年度に45床で建替えとする基本設計を終え、令和3年度予算に実施設計を計上し、議会で議決されたにもかかわらず、業

問

また、議会や熊石地域住民への説明なしに診療所化検討についての新聞報道があり、地域住民を困惑させ、町長への不信感を増高させた。

その後、熊石町内会連絡協議会が署名活動を行い、1556名の賛同を得て要望書を提出したが、これは熊石地域住民の総意である。計画どおり45床での建替えを実施すべきではないか。

町長

熊石国保病院は地域に必要な医療の提供に努め、地域住民の生命と健康を守り、安心して暮らしていただける診療体制の維持と医療サービスの充実に取り組み、地域医療を担っている。

病院開設者として、稼働病床数を45床に定め、令和3年3月に基本設計を終えた。今後については、地域住民と直接対話をし、意見を尊重しながら、地域住民の皆様の安心に努める。

Q 子どもにも投資を！

A 少しずつでも取り組んでいく

あかい 赤井 むつみ 睦美 議員



問 急激に進む人口減少の中、少子化対策のための八雲町の子育て支援が充実してきた。だが実際、給食費や保育料、医療費等が無料になつて出生数の増加に繋がっているのか。

無料になってまだ間もないので、結論を出すには早すぎると思うが、時代とともに必要な支援の内容も変わってきている。文教厚生常任委員会でも子育て支援の提言をしてきたので、今後十分な検討が必要だと考えるが、ばらまきのような支援方法では、少子化対策に繋

がらない。子どもたちが意欲的に学べるように、学校や家庭の他に第3の居場所を作り、民間と共に教育環境を整え、直接子ども達への投資が必要だと考える。これからは、英会話や簡単なプログラムミングもできるということが大切ではないかと思うが、町長の考えを伺う。

町長 人口減少のスピードを緩める、そして安心して子育てができる環境作りのため、給食費無料、保育料の軽減、高校生までの医療費の無料化を行ってきた。

今後は縦割りではなく、横の連携を取つて子どもたちをサポートできる仕組みを作る。教育では、ICT導入により都市部と変わらない教育事業を進めているので、ICTと読解力の向上を両輪で進

め、外国語やプログラミングについても、子ども達の力にもう一つ上積みできるように検討する。

Q より良い熊石国保病院をめざして

A 熊石の医療の持続化が目的

問 文教厚生常任委員会において、熊石国保病院の基本構想・基本計画が示され、議会で実施設計のための予算が可決しているにもかかわらず、動きがストップしたままである。

なぜストップしているのか説明

もなく、委員会の中で「人口減少に備え、用途変更ができる建て方の工夫を」という意見が出たことに對しても返答のないことに疑問を持っている。委員会に示された基本構想・基本計画の内容がそのまま実施設計に盛り込まれているのか、それとも今後変わる可能性があるのか、町長に伺う。

町長 実施設計には、基本構想・基本計画及び基本設計の内容

を基礎とするが、将来に渡り地域医療を確保していくための適切な病床数については慎重に判断したい。

文教厚生常任委員会から将来の用途変更の話が出たときに、もう少し議論しておけばよかったと反省している。

建物を建てるのが目的ではなく、熊石の医療を続けていくことが最大の目標なので、地域の皆さまはもちろん、病院長やスタッフの皆さまとじっくりと話し合つて進めていきたい。



熊石国保病院

Q 国保病院改築の速やかな執行を

A 課題を整理する必要がある

よこたきよし 議員
横田喜世志



ないが、途中で一度立ち止まり、地域住民、病院長、病院のスタッフ、関係機関等と話をしながら、慎重に判断していきたいと考えている。

問 熊石国保病院の改築について、令和3年度に実施設計となっていたはずだが、未だに行われていない。速やかに執行すべきと考えるが、町長の考えを伺う。

問 熊石地域の住民も含め、皆で考えた45床を基本とする計画を、なぜ延ばさなければならぬのか。地域の安全・安心な医療を、効率

町長 国保病院の建替えは病床数を45床とする計画で進めているが、将来に渡り持続可能な病院運営を安定的に確保していくために、改めて課題を整理する必要があると考えている。

問 課題というのは、具体的にどのようなものなのか。

町長 詳しく述べることはでき



熊石国保病院

で済ませようとするのもどうなのか。町民を守るのは行政の責任。年度内の実施設計を再度要求する。

町長 慎重に判断をし、スタートを切りたい。

Q 小水力発電は町独自で

A 町独自の事業は難しい

問 小水力発電特別目的会社に出資することで、その事業に町の意向を反映できるとしているが、再生可能エネルギーを町民に還元するために、町独自で事業展開することはできないのか。

町長 地域の課題解決や地域貢献に繋げるため、出資をすることで意見反映に努めていきたい。

小水力発電は専門的な知識や技術が必要であり、事業者と協力関係を築き、事業を展開していく手法を選択している。

議会これからの予定

- 《2月》 22日 全員協議会
- 《3月》 3日 議会運営委員会
- 9日～16日 第1回定例会
- 予算特別委員会
- 全員協議会
- 総務経済常任委員会
- 文教厚生常任委員会
- 広報広聴常任委員会
- 議会運営委員会

議会を傍聴してみませんか

次の議会は、

令和4年第1回定例会

3月9日（水）午前10時から
開会の予定です。

お気軽に足を運んでみてください。

YouTubeで映像配信もします

Q これからの熊石地域の医療・介護政策は？

A 地域医療・福祉の充実に努める

せきぐち まさひろ 議員 関口 正博



問 高齢者が自宅等の住み慣れた地域で安心して療養し、安心して生活を続けていくためには、地域医療・介護サービスの連携は不可欠である。

①全国的に介護人材・医療人材の不足は深刻な問題であるが、熊石地域の現状と課題は？
②地域包括ケアシステムの更なる充実のため、熊石国保病院の改築にあわせて医療と介護の連携拠点の設置ができないか。

①令和3年11月末現在の熊石地域の人口は1978人で高齢化率は57.9%となっている。介護や医療に携わる人材確保は非常に厳しい状況であり、大変深刻な問題と認識している。人材を確保するための具体的な方法を研究するとともに、積極的な募集活動を継続していく。
②高齢化率が高く、担い手が少ない熊石地域では、医療や介護の専門職が行う公的サービスの連携に加え、元気な高齢者が担い手となる有償ボランティアの立ち上げや地域サロン開設などの地域福祉の充実を後押しする取り組みを行っている。

地域包括ケアシステムの更なる充実を図るには、医療と介護、地域福祉との連携は理想であり、重要であると考え、全庁的な組織機構の見直しの中でどのような連携

が図れるか検討していく。
問 コロナ禍は、医療・介護の人材不足をさらに深刻にし、同時に医療連携の大切さを浮き彫りにしたといえる。八雲町にある二つの病院、八雲総合病院と熊石国保病院では医療連携が進んでいないのが現状である。人材確保、医療スタッフの負担軽減という意味においても両病院の医療連携は重要と考える。

問 町長の熊石国保病院の診療所化の発言から、病床数の議論が中心となってしまう、本来議論しなければならない問題が置き去りにされている。

副町長 八雲総合病院としても

現状は大変厳しい状況であり、熊石国保病院の運営に対応できていない面も相当であると認識している。熊石国保病院長をはじめ、医療スタッフに負担をかけていることは承知している。今後は町長、八雲総合病院長を含め、どのような支援ができるか積極的に協議を進めていきたい。



熊石国保病院

Q 町長の「所信表明」について伺う

A ①国保病院は45床が基本 ②地域新電力は検討する

③新幹線工事は監視していく ④サーモンは採算とれる！

みさわ 三澤 議員 ぎみお 公雄



問 第5回臨時会（初議会）に

おける町長の「所信表明」について伺う。

①熊石国保病院について、町長は「医療連携と役割分担をしっかりとやっていく」「医師だけではなく、薬剤師やレントゲン技師の派遣もやっていく」と答弁してきた。あの程度の病床数を確保したうえで、連携・役割分担と考えると、診療所化はないものと判断しているのか。

町長 45床が基本であるが、一

番肝心な「医療を維持していく」ことにしっかりと対応したい。

問 ②小水力発電事業について、

発電と地域新電力、さらに蓄電池としての電気自動車（EV）の組み合わせで、エネルギーの地産地消が可能となる。SDGsの時代に、熊石地域に夢をもたらずもの

と考えるが、町長の考えを伺う。

町長 地域新電力について、運

営のノウハウや、人材の確保が課題であるが、可能性について検討したいと考えている。

熊石地域には、小水力発電に適した町管理河川が他に2本ある。今後、調査を進めていきたい。

問 ③北海道新幹線建設工事に

ついて、トンネル工事掘削土の扱いや井戸水の変化に対して、町の

危機意識が低いと感じられる。

「基準は守っているはず」という性善説的な信頼関係は、危うい時期にきていると思う。町長の考えを伺う。

町長 鉄道・運輸機構に対し、

さらに要請し、監視していきたい。することも重く受け止めるべき。新

駅のできる地区は、上水道を引くことが解決になるのでは。

町長 新駅建設を待たずに、水

道を通すことを考えている。

問 ④二海サーモン養殖事業の

採算性について、卵を購入し育てることでコストが下がるのか。サーモンは価格が安いので人気がある。輸入物に勝てるのか。他の

魚種も研究しないのか。

町長 卵は北米からの輸入だが、幼魚の輸送よりも低コストである。

量産体制を整えれば、北海道産サーモンは輸入物と勝負できる。サーモンの他、イトウの研究もしている。

Q 移動投票所の導入と

立会人の待遇改善を

A 検討していきたい

問 期日前投票の「移動投票所」

を導入することで投票率向上に繋がるのでは。

選管委員長 今後、体制や運

用方法などについて検討していきたい。

問 立会人の待遇改善を図るこ

とで、担い手不足が解消できるのでは。

選管委員長 交代制など、拘

束時間の軽減についても検討したい。



Q 「LINE」の活用

スマホのない人との格差は？

A 携帯電話を活用し屋外スピー

ーカー、戸別受信機等にも配信が可能なものを検討中

Q 通学路の安全を図れ

A 対策の徹底を要請する

ともこ 議員
佐藤 智子



問 道道八雲・厚沢部線は通学路となっている。新幹線工事のダンプカーからの粉じんは子ども達の健康に悪影響を及ぼすのではないかと。鉄道・運輸機構への要請や対策が必要と考える。

また、冬道の歩道は、通学に支障が出ない時間に必ず除雪するよう、に道路事務所に要請するべきではないか。町長の考えを伺う。

町長 道道八雲・厚沢部線を通

行する新幹線の渡島トンネル工区、二股トンネル工区にかかる工事車両に対しては、環境に十分配慮す

るよう要請している。粉じんについては、飛散防止対策の徹底を再度要請していく。

歩道の除雪については、函館建設管理部八雲出張所に確認したところ、除雪の時間帯が遅くなること、通学時間帯に合わせた除雪体制について要請していく。

教育長 教育委員会としても通

学路の安全確保について、関係部署と連携を図っていく。

Q 環境基準を超えた

対策土の情報公開を

A きちんと説明をするよう

鉄道・運輸機構に強く伝える

問 昨年、新幹線トンネル工事

の盤石工区から、ヒ素130倍の土が出ていたことが判明した。こ

の件については一昨年の10月、鉄道・運輸機構から町に報告があったが、その後一年近く議会に報告がなかったのはなぜか。

町長 盤石トンネル工区から黒

岩の受入地に、基準濃度を超える対策土が搬入された事案については、鉄道・運輸機構がすぐに回収をし、工事ヤードへ返送、搬出後の受入地の水質検査も徹底されたことから報告を要しないと判断した。

対策土の処理方法については、鉄道・運輸機構における有識者を交えた自然由来重金属等掘削土対策検討委員会で審議される。

未処理濁水についての相談は役場新幹線推進室で受け付けるが、町独自で水質検査はしない。

Q 漁獲量向上にはダムの

スリット化が有効では

A 因果関係はわからないが、北海道に要請していく

問 渡島管内では秋サケの不漁が続いている。対照的に檜山管内では好調だ。

せたな町では河川の治山ダムなどのスリット化が実現し、産卵しやすい環境が整えられている。ダムのスリット化に努力するべきではないか。

町長 サケが獲れない原因が、はつきりと掴めていないと認識している。ダムのスリット化によってサケが獲れるようになったのか、因果関係については計り知れない。「こうしたらサケが獲れる」という意見があったことも含めて、北海道に要請していきたい。



スリット化されたダム

定例会・臨時会議件一覧

令和3年第4回定例会（令和3年12月9日～14日）

議案第1号	八雲町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	事業者と保護者との間で行われる諸記録の作成・保存や手続き等を書面に代えて、電磁的方法により行うことができる
議案第2号	八雲町国民健康保険条例の一部を改正する条例	出産一時金等の支給額を40万4千円から40万8千円に引き上げ
議案第3号	八雲町消防団条例の一部を改正する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・班長の年額報酬を33,000円から37,000円に引き上げ ・団員の年額報酬を26,000円から36,500円に引き上げ ・出勤報酬の新設 <ul style="list-style-type: none"> 災害出勤等 日額8,000円 会議以外 日額4,000円 会議 日額2,000円
議案第4号	財産の無償貸付けについて	旧泊川小学校と教員住宅2戸を、少子高齢化対策や雇用創出に活用するため、リングロー（株）に無償貸付け
議案第5号	令和3年度八雲町一般会計補正予算（第7号）	
議案第6号	令和3年度八雲町国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）	
議案第7号	令和3年度八雲町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）	
議案第8号	令和3年度八雲町病院事業会計補正予算（第4号）	
議案第9号	財産の取得について	戸籍総合システム及び電子計算機器一式を購入
発委第1号	地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める意見書	
発議第1号	入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書	
発議第2号	石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書	
発議第3号	令和3年9月以降に北海道で発生した赤潮による被害対策等を求める意見書	
発議第4号	北海道農業の基幹作物てん菜の生産を守ることを求める意見書	
発議第5号	中国政府による新疆ウイグル、チベット、内モンゴル等自治区への人権侵害等を非難することを求める意見書	
議会運営委員会の閉会中の継続調査申出について		
令和4年第1回臨時会（令和4年1月12日）		
議案第1号	令和3年度八雲町一般会計補正予算（第9号）	
承認第1号	専決処分の承認を求めることについて	八雲町一般会計補正予算（第8号）の専決処分

異議あり!

第4回定例会 賛否一覽 (反対のあった議案を掲載)

賛成 ○ 反対 ×

議 案 名	採決結果	赤井 陸美	佐藤 智子	横田 喜世志	大久保 建一	関口 正博	宮本 雅晴	倉地 清子	三澤 公雄	牧野 仁	安藤 辰行	能登谷 正人	斎藤 實	黒島 竹満	千葉 隆
議案第5号 令和3年度八雲町一般会計補正予算(第7号)	可 決	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
発議第1号 入院治療の対象者の重点化及びそれ以外の患者は自宅療養を基本とする対応を可能とする政府方針の撤回を求める意見書	否 決	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×
発議第2号 石炭火力による発電量をゼロとする目標年限を表明することを求める意見書	否 決	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×

※千葉隆議長は、賛否同数の場合にその可否を決定します。

常任委員、新たに3名選任される!

令和4年1月12日開催の第1回臨時会において、新たに3名の常任委員が選任されました。これにより総務経済常任委員会、文教厚生常任委員会ともに8名で構成されることとなります。

○新たに選任された委員

総務経済常任委員会 関口 正博 倉地 清子
 文教厚生常任委員会 大久保建一



上記3名の委員は、総務経済常任委員会と文教厚生常任委員会の両方に所属することとなります。

議会のうごき

《12月》

3日 議会運営委員会
 9日~14日 第4回定例会
 総務経済常任委員会
 文教厚生常任委員会
 広報広聴常任委員会
 議会運営委員会

《1月》

11日 広報広聴常任委員会
 12日 第1回臨時会
 全員協議会
 13日 総務経済常任委員会
 20日 文教厚生常任委員会
 広報広聴常任委員会

八雲町内の 二酸化炭素 削減量 はどのくらい？



試算の結果、年間約6万2千トンは見込める！

八雲町内のバイオガス発電や、大規模太陽光発電、また現在のところ事業化を予定している小水力発電などの取り組みによる二酸化炭素（CO₂）削減量を簡易的に試算してみましたが、年間約6万2千トンを超える削減量が見込めると算出しました。

1人当たり年間CO₂排出量は2.3 t（出典：JCCCA）

二酸化炭素削減量を予想発電量をもとに試算しました

計算方法：年間発電量（予想）×基礎排出係数0.000565（参考：R2北海道電力実績より）

○八雲町内5基（稼働予定含む）のバイオガス発電による二酸化炭素（CO₂）削減量
発電出力788万4千kWh×0.000565=4,454 t

5基あるバイオガスプラント（150kWh×3基、200kWh×1基、250kWh×1基）を365日稼働したものととして算出

○八雲町内の大規模太陽光発電（ソーラーパーク）による二酸化炭素（CO₂）削減量
発電出力1億68万2千kWh×0.000565=56,885 t

○平田内川小水力発電事業（予定）による二酸化炭素（CO₂）削減量
発電出力179万8千kWh×0.000565=1,016 t

合計 約62,355 t の二酸化炭素（CO₂）削減！

町民一人ひとりが「脱炭素」に関心を持つことが大きな効果に！

気候変動による地球温暖化に対して、八雲町、八雲町議会、そして八雲町民の「バタフライ・エフェクト（小さな行動が、やがて大きな結果を生み出す）」を、これからも続けましょう。

特集！

八雲町の脱炭素の取り組み

再生可能エネルギーについては、今までも議員がそれぞれの一般質問を通じて、町に対し取り組みの強化を訴えてきましたが、平田内川の小水力発電事業への出資などからも、「八雲町の脱炭素」への取り組みがはっきりと見えてきたので、今回、特集を組んでみました。

2017年 「再生可能エネルギー導入ビジョン」 策定

地球環境保全の視点

- ・ 地域レベルでも対応可能な取り組みがある。
- ・ 再生可能エネルギーの導入は町民の暮らし・経済活動を持続可能なものとする。

地域振興の視点

- ・ 再生可能エネルギーの導入は地域振興策としても有効。
- ・ 利益（売電）や雇用創出を見込める。



2019年 「八雲町バイオマス産業都市構想」 農林水産省に選定される

太陽光発電

- ・ 大規模太陽光発電による売電。（山崎・花浦地区）

畜産系バイオマス

- ・ 畜産ふん尿を活用したバイオガス発電。
（メガファームにバイオガスプラントを設置）

地熱利用に向けた取り組み

- ・ 調査により事業化は断念したが、新たな調査を模索する。

温泉熱の活用

- ・ 温泉熱を活用した野菜の栽培や、あわびの種苗生産。（熊石地域）



大規模太陽光発電所

常任委員会 の活動

令和3年11月から令和4年1月の
各常任委員会の活動です。

文教厚生

所管各課から報告を受けた中で
主なものをお知らせします。

【八雲総合病院】

呼吸器科の医師が令和3年12月
31日付で退職され、令和4年4月
1日付で総合診療医が採用される
予定です。内科医は今までどおり
3名となります。

【社会教育課】

令和3年度の成人式が1月3日
に、令和2年度の成人式が1月9
日に行われました。
令和4年4月からは満18歳以上
が成人となりますので、来年度の
成人式は「二十歳の集い」という
名前で開催される予定です。



やっと迎えられた成人式

【保健福祉課】

①3回目の新型コロナワクチン接
種が、12月から医療従事者を対象
に始まり、順次、町民の皆さまへ
の接種が行われます。
オミクロン株の感染力が強力で、
子ども達にも感染する可能性があ

るということから、5歳以上のお
子さんも接種対象者となる予定で
す。ただし、初めてのワクチン接
種で副反応など不安があると思い
ます。八雲総合病院の吉田医師が
動画でわかりやすく解説していま
すので、是非ご覧ください。

「子どもへの新型コロナ
ワクチン接種に関する
動画配信について」



上記QRからご視聴を！

②新生児聴覚検査助成事業につい
て、令和4年4月1日から、聴覚
検査1回につき上限5千円が助成
されます。

生後3日以内に行うことが望ま
しいとされ、早期発見・早期療育
により、難聴児の生活の質を大幅
に改善できることを目指します。
八雲総合病院で検査した場合は全
額助成されます。(検査1回につ
き3千3百円)

【熊石国保病院】

熊石国保病院改築事業の基本設
計について、昨年1月に中間報告
として示されましたが、その後、
進展がなく、令和4年1月開催の
当委員会において初めて見るこ
うになりました。

しかし、今年度の実施設計が見
送りとなり、令和4年度当初予算
にも盛り込まないとのことでした。
時間をかけた分、より充実した
内容になることを地域の皆さまは
楽しみにしていることと思います。

昨年11月に、国保病院のス
タッフの皆さんと意見交換をし
ました。

古い病院ならではの苦労話が
たくさん出てきました。
そつした今までの苦労が報わ
れるような病院を期待してい
ですね。

総務経済

所管各課から報告を受けた中で、主なものをお知らせします。

●平田内川小水力発電会社設立に
対する出資について（商工観光労
政課）

事業内容

- ・最大出力360kWh。
- ・売電単価29円（1kWh）
- ・建設予定地は熊石平田内川。
- ・建設費用は6億5千万円。
- ・資本金は5、500万円。
- ・本社所在地は八雲町。

資本金5,500万円の出資割合

	出資金	出資割合
日本発電（株）	2,805万円	51%
八雲町	1,100万円	20%
興和工業	550万円	10%
（株）大地と自然 エネルギー総合研究所	495万円	9%
清水建設（株）	275万円	5%
三菱商事（株）	275万円	5%

事業によって得られる効果

- ・2050年ゼロカーボンに向け
た再生可能エネルギーの導入が図
られる。
- ・小水力発電事業が熊石地域の活
性化に繋がる。
- ・税収が見込まれる。
- ・雇用の機会が見込まれる。

●八雲町U・イターン就職奨励金
制度（案）について（商工観光労
政課）

進学や就職により地元を離れた
Uターン者及び新たに町内に転入
したイターン者で、転入してから
1年以内に雇用された者に対し、
奨励金を交付する。

支援概要 1年目に30万円（奨励
金）、2年目に20万円（商品券）。

対象 50歳未満で八雲町に住所を
有する者。（一定の制限あり）

外国人であっても永住者、日本
人の配偶者等、定住者、特別永住
者のいずれかの在留資格を有する
者。

委員からの意見を踏まえて
再検討されました。

●町内循環型商品券発行事業につ
いて（商工観光労政課）

対象者 基準日（令和4年3月1
日）に八雲町の住民基本台帳に記
録されている住民。

取扱い事業者 公募による町内業
者（大型店含む）

配布内容 額面1万円（千円券×
10枚綴り）

後に再検討され、額面1万5千
円（千円券×15枚綴り）に増額
されました。

●地域会館（東野母と子の家）整
備について（政策推進課）

東野1区会館とわらび野会館を
老朽化のため解体し、津波浸水想
定区域外にある東野母と子の家を
改築することにより、会館の統
合・集約を図る。

東野1区会館に併設の消防団
格納庫は移転しないの？

●八雲消防署落部出張所併設八雲
消防団第6分団格納所の建設候補
地について（消防本部）

落部駅前空き地が建設予定地
として示された。他の土地も検討
されたが、建設予定となる落部駅
前は津波浸水想定区域内でもあり、
今後も土地の選定や津波に対応し
た建て方などを検討していく。

消防は防災の要。津波に対しての
危機意識を持って検討してほしい。

●株式会社青年舎の役員体制の変
更について（農林課）

令和3年12月1日より新役員体
制となった。

- ・代表取締役社長 吉田 邦夫
- ・取締役 浦屋 勝三
- ・取締役 佐藤 睦
- ・取締役 宮谷 裕一
- ・顧問 岩村 克詔
- ・顧問 舟田 進一
- ・顧問 日比野浩章

耳をすまして

町民の皆さまの声が聞きたくて、議会を飛び出し町内の色々な団体やサークルなどの皆さまの声を聞いてみました。

今回は

八雲中学校生徒会の皆さまです！

Q 生徒会に立候補したきっかけや公約は？

いじめのない学校にしたい。生徒の声をかなえなかった。多くの生徒とコミュニケーションを取り、学校の課題を解決したい。プルタブ回収運動などに賛同したから。先頭に立つことが大事だと思った。より良い学校生活を送るため。トイレを改善したい。

Q 公約は実現できていますか？

結構できている。学校の課題は深堀りできていない。先頭に立つことは達成している。トイレの改善は大規模改修で改善される。

Q 今後生徒会で取り組みたいことは？

校則など、なぜこうしなければならないのかを明確にしたい。

Q 違和感を持っている校則は？

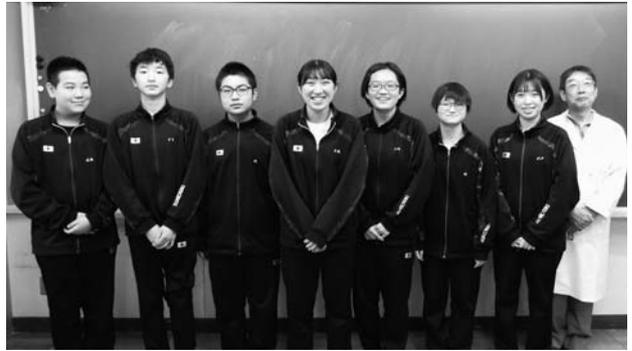
なぜ髪型が細かく規制されているのか理由がわからない。「中学生らしく」が具体的にどうすればよいかわからない。

Q 制服はあったほうが良いですか？

あったほうが良い。私服は洗濯が大変。私服だと貧富の差が出て、いじめに繋がるかも。セーラー服は温度調節が難しく、ブレザーのほうが良い。

Q 教室内は快適ですか？

コロナ対策で換気もしているので、すごく寒い。暖房機器の老朽化で教室によって差がある。



Q 八雲町に欲しいものは？

中学生の遊び場を作ってほしい。運動できる施設。ショッピングモールのような買い物ができる場所。洋服店や文房具店。ファーストフード店。プラモデル店。中学生同士で利用できる飲食店。専門的な病院。

Q 八雲町で改善してほしいところは？

八雲中学校近くの五差路交差点や、梅村庭園近くの踏切付近の歩道が狭くて危ないので改善してほしい。

～取材を終えて～

今回、取材をしたきっかけは、八雲中学校生徒会が、校舎の大規模改修にあたっての生徒の意向調査を、ICTを活用しスピーディに答えをまとめた行動に強く感銘を受けたからです。これを縁にして、議会による「まちづくり」にも関わってほしいと思います。



営利を目的とする場合を除き、この議会広報誌をそのまま読むことが困難な方のために、録音図書・拡大写本等へ複製することを認めます。製作後は八雲町議会事務局（☎0137-62-2388）へご報告ください。

編集後記

「まちに病院があるのは当たり前なことではない」
僕が議会議員になる前、故岡島敬前議員から聞かされた言葉だ。

熊石国保病院改築事業における町長の「診療所化」発言は、町民を困惑させるとともに、実施設計を議決した議会においても議論を巻き起こしている。

昭和28年に診療所として開設した熊石国保病院は、70年余りにわたり熊石地域住民の健康と安心を守ってきた。今回の件によって町民が反発するのは当然であるともいえる。

しかし、人口減少が加速していく中、病院があることが「当たり前」、医師がいることが「当たり前」な未来ではない。

だからこそ熊石国保病院を未来に繋げるためには、もっと多面的なデータによる冷静な議論が必要でありその役割をしっかりと担っていかねばならないと強く感じている。

議会広報広聴常任委員会
副委員長 関口 正博